

## 接辞「～さ」の使用変化

堀尾, 佳以  
九州大学留学生センター : 非常勤講師

<https://doi.org/10.15017/4777923>

---

出版情報 : 九州大学留学生センター紀要. 16, pp.29-38, 2008-03. 九州大学留学生センター  
バージョン :  
権利関係 :

## 接辞「～さ」の使用変化

堀 尾 佳 以\*

### 0. はじめに

「生きている」言語は常に変化し続けている。「変化」の中でも、活用・用法や、語彙の拡大、用法適用範囲の拡大など様々な現象が挙げられるだろう。最近では特に、「～感」「～さ」といった、接辞を用いて、他の品詞（もしくは同じ品詞）から名詞化し、新しく造られた語彙をよく見かける。

本研究では、「名詞を名詞化」する接辞「～さ」に焦点を当てる。

#### 0.1 目的

接辞「～さ」は、適用範囲を広げているようであるが、元来「～さ」を付加し、他の品詞を名詞に変える文法的機能を持つ、生産性の高い接辞である。その接辞「～さ」による新しい造語を取り上げ、接尾辞「～さ」によって造られた名詞について解明する。また、新しい造語の特徴を捉え、その使用例から実態を明らかにすることが本研究の目的である。

#### 0.2 方法

自然談話録音資料だけでは例が少ないため、テレビなどメディアで使用されている語彙だけでなく、インターネットで公開されている新聞記事からも収集、言語学的分析を行う。

#### 0.3 資料

本研究の分析に使用する「～さ」使用例、資料は、インターネット上の語彙を中心とする。

### 1. 名詞化とは

まず「名詞化」とはどのようなものか、その種類と名詞化の方法を示す。次に、名詞化する接辞「～さ」の従来の用法について、先行研究を参考にまとめる。

#### 1.1 名詞化する動詞・形容詞 その種類と方法 名詞化する接辞や語彙を次に挙げる。

##### 名詞化の種類<sup>1</sup>

～さ	高さ、勤勉さ	い/な形容詞	名詞
～方	話し方、笑い方	動詞(ます形)	名詞
～よう	良いよう、聞きよう	動詞(ます形)	名詞
～性	重要性	形容詞(的な要素)	名詞
～目	細め、控えめ	い形容詞(語幹) 動詞(ます形)	名詞 名詞
～げ	楽しげ、やさしげ	い形容詞	名詞
～感	やりきった感	動詞	名詞

##### 従来の名詞化接尾辞「～さ」

名詞化接辞「～さ」は、便利で生産性の高い接辞であり、その働きによってこれまでも語彙が増えてきた。ここでは先行研究・関連文献を参考に、従来の接辞「～さ」についてまとめる。

他の品詞を名詞に変える文法的機能を持ち、生産性の高い接辞である。

#### 1.2 先行研究・関連文献の問題点

従来の接尾辞「～さ」がどのような品詞を名詞化するのか、また作られた(名詞化された)名詞がどういった意味を含むのかについて、先行研究・関連文献をあげ、問題点を指摘する。

\*九州大学留学生センター非常勤講師

先行研究・関連文献で、接辞「～さ」の用法や役割などについて用例を挙げ言語学的に分析し、まとめたものは少ない。また接辞「～さ」について挙げられている用例も異なり、言語学的分析も同じように行われているわけではない。どのような特徴が挙げられているのか、以下にまとめる。

- ・名詞に付加できる = 2 資料
- ・「ナ形容詞<sup>2</sup>」に接辞「～さ」をつけられる = 5 資料（「ナ形容詞」に制限がある = 1 資料のみ）
- ・「名詞 + さ 名詞化語彙」に言及 = 2 資料

しかし、ここに挙げられた特徴も、文献によっては見解が異なる。

「広辞苑」第二版 新村出 岩波書店

(1955、1969、1974)

さ【接尾】形容詞の語幹、形容詞型助動詞のあるもの及び形状性名詞について、その程度、状態をあらわす名詞をつくる。源桐壺「あましようつくしげ 添ひ給へり」。

例えば、名詞に付加できるとされているが、「広辞苑」で挙げられた例である「うつくしげさ」は資料の出典が「源氏物語」であり、現代日本語ではない。本研究は、現代日本語に起きている変化を中心としており、共時的研究であるため、この用例により「名詞を名詞化する」とは言えない。従って、このような文献は文献としてあげるのみで、本稿では研究対象としない。

「日本語文法大辞典」山口明穂 明治書院

(2001)

その程度・状態にあることを示す。「その美人さで恋人がいないなんて」

名詞に付加する接辞「～さ」に関して、山口(2001)では、「その美人さで恋人がいないなんて」という例が挙げられている。しかし、この資料

で挙げられた用例は出典が明らかではなく、実際に使用されているかどうか、信憑性が薄い。

「日本語文法新論」 - 派生文法序説

清瀬義三郎則府 桜風社 (1989)P.13～P.14

名詞から派生せられた名詞は 名詞由来名詞 (Denominal Noun) と呼ばれるが、日本語の実名詞<sup>3</sup>には、文法的な性(gender)も無ければ数(number)も無いので、実名詞に由来する派生実名詞というものは存在しない。しかし、実名詞に接辞「- 的」が接尾すると、「学問的」「欧米的」など形状名詞<sup>4</sup>の語幹を派生する。形状名詞の語幹に接辞「- ソウ」が接尾すると、「元気ソウ」「気ノ毒ソウ」など様相 (evidential) を表す形状名詞を派生する。さらに、形状名詞の語幹に接尾して実名詞を派生する接辞には、「静カサ」「親切カサ」「丈夫カサ」などの例に見られる様に「- サ」がある。

従って、清瀬 (1989) によると、「名詞から派生せられた名詞は名詞由来名詞 (Denominal Noun) と呼ばれるが、日本語の実名詞<sup>5</sup>には、文法的な性 (gender) も無ければ数 (number) も無いので、実名詞に由来する派生実名詞というものは存在しない。」としており、「名詞 + さ 名詞化された語彙」という変化を全面的に否定している。

「日本語ボランティア すずめ の忘れっぽい自分のための文法ノート」<sup>6</sup>

い形容詞	優しい 優しさ 嬉しい 嬉しさ 面白い 面白さ つらい つらさ 暗い 暗さ 懐かしい 懐かしさ
い形容詞型活用	子供っぽい 子供っぽさ 山田さんらしい 山田さんらしさ
な形容詞	元気な 元気さ 勤勉な 勤勉さ 親切な 親切さ 便利な 便利さ スポーティーな スポーティーさ

この資料では、従来あまり使用されてこなかった「元気さ」「親切さ」「スポーティさ」などが例として挙げられているが、実際にどのように

使用されているのか、といったことについては、全く触れられていない。

このように、「日本語文法大辞典」には「美人さ」など「名詞」に接辞「～さ」を付けるとする資料がある一方で、「日本語文法新論」では「実名詞に由来する派生実名詞というものとは存在しない。」と、全く反対の分析をしている。このように先行研究・関連文献では、接辞「～さ」の付加について、様々な解釈が見られる。

### 1.3 疑問点と解明したい点

先行研究・関連文献の問題点から以下のような疑問点と解明したい点を挙げる。

名詞を名詞化するという、従来には無かった用法が使用され始めている。このような「～さ」に関する変化は、なぜ起こったのだろうか？

「状態を表わす名詞」とは、「美人」以外に何かあるのだろうか。またこの「美人」に「～さ」を付加した「美人さ」という名詞にも疑問が残る。ここは素直に「美しい」+「～さ」である「美しさ」でいいのではないだろうか。作例かどうかとも分からず、出自が定かではない。この「美人さ」の使用例についても調べたい。

関連資料には、「元気さ」「親切さ」「スポーティさ」といった、これまであまり耳にしなかった語彙が挙げられているが、これらの語彙は、実際にどの程度使用されているのだろうか。

## 2. 名詞化「～さ」に見られる変化

名詞化する接辞「～さ」は、イ形容詞に付けたり、ナ形容詞（の一部）<sup>7</sup>にも付けられ、名詞を他の品詞から派生させる接辞として、これまでも使用されてきた。

しかし、現在の使用例を見てみると、従来の「～さ」とは異なると考えられるものが見受けられる。実際の使用例と、現在の使用状況をふまえ、名詞化する接辞「～さ」に見られる変化は、どのようなものなのか、どのように使用されているのかをまとめる。特に、

- ・「な形容詞」に関する使用制限 許容範囲の拡大
- ・従来の接辞「～さ」の用法と言語学的特徴について
- ・名詞に付加する新用法とその言語学的特徴について

以上3点について、調査・分析を行うことで、名詞化接尾辞「～さ」に起こっている変化を明らかにすることができると思う。

本研究の分析に使用する「～さ」使用例、資料は、インターネット上の語彙を中心とする。特に全国の新聞を網羅した検索エンジン、「検索デスク<sup>8</sup>」を主に利用したところ、1739件中、415の使用例を収集することができた。この415例の分析を行う。

## 3. 接辞「～さ」の言語学的特徴

国立国語研究所「かたりぐさ」を使用し、接辞「～さ」の付加できる語彙を漢語と和語に分類、その品詞を調べる。結果を従来のものと比べ、変化が見られるものの特徴を捉えることとする。

### 3.1 形態的特徴

接辞「～さ」には、付加することで他の品詞<sup>9</sup>を名詞に変える働きがある。つまり、名詞化するという性質から形態的特徴は従来のものと同じである。

### 3.2 統語的特徴

統語的特徴では、「～さ」をつける語幹について主に見ていく。

#### 3.2.1 簡素化

他の名詞や名詞化する接辞があるにもかかわらず、「～さ」を付けて名詞化している。

- ㊦ 「独裁の闇解明進まず スピード重視、公平さ疑問」  
 (東京新聞 - 2006年 6月19日) 公平性  
 学術的真偽を別にして、緊迫さに欠けた...  
 (東亜日報 2006年 6月28日) 緊迫感  
敏捷 (びんしょう) さが傑出していた。  
 (読売新聞 2006年12月25日) 敏捷性  
 欧州各国部隊がパリで行進 革命記念日、多様さ象  
 徴 (福井新聞 2007年 7月14日) 多様性  
 改憲論議の行方は不透明さを増している。  
 (中国新聞 2007年 8月 7日) 不透明性

従来は「～性」や「～感」等も使用していたが、「～さ」を多数使用するようになってきている。これらの例からも分かるように、「～さ」以外の、他の接辞を使わずに名詞を造ることで、名詞化ルールを統一、簡素化していると考えられる。

#### 3.2.2 語幹使用範囲の変化

現在はどのような語彙に「～さ」を付けて使用しているのだろうか。具体例を挙げる。

- ㊦ ...下品で粗暴」とその悪質さを指摘していた。(北海道新聞 2006年12月18日)  
 匿名の闇、陰湿さ増幅 仙台・ネット掲示板いじめ  
 (河北新報 2006年12月15日)  
 ...にあって惨敗中田になかったおちゃめさ、調整力... (ライブドアニュース 2006年 6月24日)  
 監督には、がむしゃらさが足りないと映っていたのだ。(朝日新聞 2007年 8月 5日)  
 ハードな使用にも耐えうる強靱さを発揮する一方、

... (日経プレスリリース 2006年12月21日)

そのシンプルさと軽量さはうまく使えば、... (ビジネスコミュニケーション 2006年12月17日)

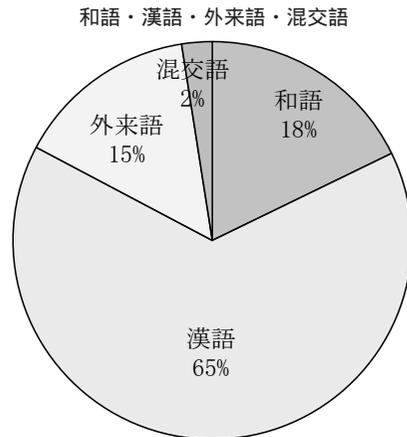
足達勇輔氏 (略) は、そんな豪胆さを感じたという。(朝日新聞 2006年 6月22日)

以上のように、これまでは使用されていなかったような語彙にも使われるようになってきている。

どのような語彙に使用されているのか、漢語や和語、品詞などに分類し、それぞれ見ていこう。

#### 3.2.3 漢語と和語、外来語

接辞「～さ」を付ける語幹についてであるが、今回収集した従来のものと異なると考えられる415例の語彙のうち、65%が漢語である。従来の用法で使用していた語幹だけでなく、類義語の語幹にも接辞「～さ」を付加し、拡大使用するようになったと考えられる。



従来は「い形容詞」、つまり和語を中心として「～さ」が付けられていたが、漢語にもその使用が拡大され、同様に外来語にも広がっているようである。

## 漢語と漢語の類義語

大切さ > 大事さ

どちらの語彙も漢語であり、ナ形容詞語幹なので、同じように見えるが、従来は「大切さ」を使用していた。現在では「大事さ」も使用されている。

㊦...信じることの大事さを教わった。

(読売新聞 2006年12月18日)

社会的連帯で反撃することの大事さを訴えました。

... (しんぶん赤旗 2006年6月26日)

「日ごろ平和の大事さを忘れていないか」などと問い掛けた...

(琉球新報 2006年6月21日)

愚直な努力の大事さを強調。着々と...

(スポーツ報知 2006年12月21日)

...遅らせた経験から食事の大事さを実感したという。

(西日本新聞 2007年7月14日)

...と平和外交の大事さを訴えた。年金

(PJ ニュース 2007年7月22日)

...も「初戦の大事さは僕も分かっている...

(日刊スポーツ 2007年7月24日)

そして、お金の大事さが分かること...

(タウンニュース 2007年7月25日)

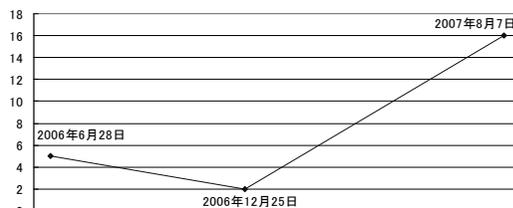
お客様の信頼やブランド価値の大事さ、企業のガバナンス...

(神戸新聞 2007年8月5日)

「大事」は、「だいじ」(漢語)「おおごと」(和語)のように、同じ漢字で異なる読みがある。漢字表記のままでは、漢語か和語か判別し難いため、これまでは使用されていなかったが、語彙拡大のため許容されるようになったと考えられる。

この「大事さ」が使用され始めたのがいつ頃かは定かでないが、これまで使用数をグラフにすると次のようになる。

「大事さ」使用数



以上のように「大事さ」が使用され、着実に使用頻度が増えていることが、このグラフからも分かる。はっきりした。つまりいつから使用されたかが問題なのではなく、使用数が増えるにつれ、「大事さ」に対する違和感が無くなり、定着しつつあるということが分かる。

このように、従来は漢語にあまり使用されてこなかったにもかかわらず、現在は「～さ」を付加できる語彙が増えていることから、{和語・漢語・混交語・外来語}の区別だけでなく、品詞にも目を向け、その使用について調べてみることにする。これまでの使用とは異なる415例を、品詞や和語・漢語などの点から分類すると、次の表のようになる。

表1 {和語・漢語・混交語・外来語} 品詞別

	イA <sup>10</sup>	ナA	ナ/N <sup>11</sup>	N	副詞	その他	合計
和	26	27	9	3	0	9	74
漢	0	93	141	27	4	4	269
外	0	26	2	4	0	30	62
混	0	6	0	0	0	4	10
	26	152	152	34	4	47	415

これまでは、「ナ形容詞」と「名詞」、両方を有する語彙に接辞「～さ」を付ける事は少なかった。しかし、接辞「～さ」を付加できる語幹の使用範囲を広げたため、ナ形容詞/名詞どちらも有する語彙を語幹とし、接辞「～さ」によって名詞化されるようになったと考えられる。

ナ形容詞/名詞どちらも有する語彙にしよう

できるようになったことから、更に名詞のみの語彙も使用可能となったようである。

名詞にも「さ」を付けるものが見られる。元の語が名詞なのだから、わざわざ名詞化する必要は無いはずだが、実際には415例中34例あった。この用例については、3.2.5「名詞」+「さ」で詳しく述べる。

### 外来語

外来語に接辞「～さ」を付ける場合、語幹となる語彙の品詞は、ほとんどが「ナ形容詞」だが、「イ形容詞」と「名詞」にも付けられる。しかし、現時点においては、「ナ形容詞/名詞」ともに有する外来語の語幹に接辞「～さ」を付けることはない。

- ①...ものから、都会的なジェントルさをアピールすべく ... (bounce 2006年6月22日)  
 ベンツE 280に上質感とスポーティさを高めた特別限定車 (カービュー 2006年6月5日)  
ダイナミックさに高級感をプラスした！ (Corism 2006年6月21日)  
 ...そのあまりのファジーさ (あいまいさ) に、「もっと... (読売新聞 2006年11月27日)  
 ...象徴やアクティブさをデザイン化... (日経プレスリリース 2006年12月18日)  
 ...カジュアルさを追求する出来となっており、... (GAME Watch 2006年12月21日)  
 計算しつくされたキャッチーさが満点！ (BARKS 2006年12月13日)  
 彼の“素”のクレイジーさをよく知るマイク・ホワイトの... (エキサイト 2006年11月30日)  
 ...がついており、シュールさを増している。 (朝日新聞 2006年12月13日)  
 ...ような表情から、さらにセクシーさが感じられる。 (中央日報 2007年7月25日)  
 ...シリーズは、フェミニンさを強調した、...

(日経プレスリリース 2007年7月26日)

...しかし、ワイルドさを残しながら洗練された...

(レスポンス 2006年12月19日)

これまでは、「グロさ」のような語彙があり、外来語に「さ」を付けたものが全く無かったわけではない。しかし、この「グロさ」は「グロテスク」という外来語から「グロい」というイ形容詞を造り、それを更に「～さ」によって名詞化されてできた語彙である。

このような造り方とは異なり、現在使用されている「外来語+～さ」によって造られた語彙は、外来語に直接「～さ」を付けている。

### ナ形容詞

ナ形容詞に名詞を接続していた従来の方をとらずに、接辞「～さ」で名詞化することで、使用範囲の拡大に繋がっているようである。

そっくりな姿      そっくりさ

- ②あまりのそっくりさに会場から... (CINEMA TOPICS ONLINE 2006年11月27日)  
 ...心身の強靱 (きょうじん) さに頼った戦法が伝統だった... (朝日新聞 2006年6月25日)  
 対策の鍵はメール識別技術の高度さにあり (ZDNet Japan 2006年6月15日)  
 リピーターも増え、みな、自由さを楽しみ始めた。客層も... (神戸新聞 2006年6月23日)  
 堅苦しさが無い、自由さが伝わってくる風景、... (伊那毎日新聞 2006年6月22日)  
 仕事も確実さに加えスピードと... (河北新報 2006年12月22日)  
 でも掃除は普段のこまめさが一番。私は... (朝日新聞 2006年12月20日)  
 ...を念頭に「戦闘の苦悩や醜悪さ」から目を... (北海道新聞 2006年12月15日)  
空虚さ抱えた大人を描く 米映画...

(西日本新聞 2007年7月27日)

...原爆の悲惨さを後世に伝える大切さを訴えた。...

(日本海新聞 2007年8月7日)

...祭は、その勇壮さ、華麗さが知られる。

(北陸中日新聞 2007年8月5日)

「ナ形容詞」の場合、「～な点」「～な面」や、「の」などで名詞句を形成しているが、この用法の代わりに接辞「～さ」を付けることで名詞化しているのである。

### 3.2.4 接頭辞との共起

接辞「～さ」は、接頭辞 {不・無・非・未・御} 等とは共起できないのだろうか。本研究で収集した資料415例のうち、接頭辞を含むものは、次の11例であった。

非常識さ・不安定さ・不可解さ・不自然さ・  
不親切さ・不確かさ・不適任さ・不透明さ・  
無秩序さ・無表情さ・有意義さ

①...マネジャもその非常識さに気づいてもいないのかも...  
(ITpro 2006年12月20日)

株価が不安定さの度合いを強めているのは、...

(日本経済新聞 2007年7月26日)

若者たちの暴走にはなお不可解さが残る ...

(朝日新聞 2006年6月25日)

見比べても、不自然さが浮かび上がる。...

(中日新聞 2007年7月8日)

その不親切さに当初戸惑う人もいたが、...

(神戸新聞 2006年6月23日)

...の対応は根拠の不確かさを反映するものであり、...  
...

(Dr.赤ひげ.com 2006年12月17日)

...の力不足と不適任さを指摘する...

(bounce 2006年6月26日)

以上のような世界経済の不透明さ、政策選択...

(朝日新聞 2006年6月26日)

論議の行方は不透明さを増している。

(中国新聞 2007年8月7日)

...で問題になった無秩序さは、フランス...

(中央日報 2006年6月26日)

...もキュートだが、無表情さが、仮面劇のような...

(ウォーカープラス 2006年6月26日)

...こうした研修があること自体に有意義さを感じていると  
(swissinfo 2006年6月15日)

「不確かさ」は混交語で、それ以外は漢語である。漢語を外来語と捉え、接辞「～さ」を付加したと考えられる。また、「表情の無さ」で接辞「～さ」を使えることから「無表情」にも使用拡大したと考えられる。

### 3.2.5 「名詞」 + 「さ」

「名詞」 + 「さ」は、これまでと異なる415例の中で34の用例が見られた。

②...など、かえって悪質さが際立っている。...

(南日本新聞 2006年12月3日)

...は絢爛 (けんらん) さに社会性をにじませた...

(北國新聞 2006年12月15日)

...による書き込みの低質さを排除すべき...

(ライブドア・ニュース 2006年12月17日)

彼のその天真爛漫さは健在だ。...

(西日本新聞 2006年11月29日)

...を思い起こさせる磐石さがあった。...

(スポーツニッポン 2006年6月20日)

...では考えられないような貧困さ、厳しい...

(デイリースポーツ 2006年12月10日)

...を思わせる文章の玲瓏 (れいろう) さはさすがにまだ...

(産経新聞 2006年12月9日)

...インテリアからにじみ出る粋さ。そして...

(Open Tech Press 2006年12月20日)

学術的真偽を別にして、緊迫さに欠けた ...

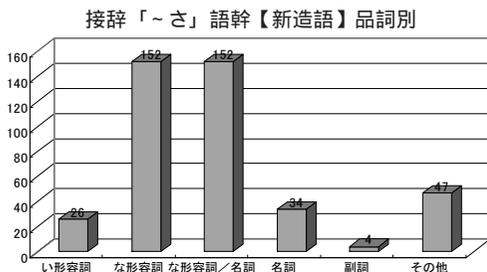
(東亜日報 2006年6月28日)

...が一定の成熟さに到達したということでもあり、

... (ITmedia 2006年12月17日)  
 骨董品店みたいだが洗練さがにじみ出る所  
 (innolife.net 2006年12月4日)  
 ...を置き換えるなど洗練さを増しながら、...  
 (Open Tech Press 2006年12月20日)  
 ...が、一方は存在さで一方は健在さとして意味が  
 付与された... (innolife.net 2006年6月20日)

語幹の品詞を拡大する際、「ナ形容詞」を接辞「～さ」で名詞化するようになった。次に「ナ形容詞 / 名詞」の両方を持つ語彙に接辞「～さ」を付加できるようになった。その用法がさらに拡大して、「名詞」にも接辞「～さ」を付けられるようになったと考える。

### 3.2.6 語幹の品詞



従来の用法では、な形容詞と同形で名詞が存在する場合、「さ」は付加しない。

① 元気な 元気が (ある / ない)

しかし、「元気さ」のように使用される例が見られるようになった。

② ...さわやかさと元気さで話題沸騰のなか...

(Ongaku DB.com 2006年6月28日)

従来のものとは異なる、接辞「～さ」の語幹を品詞別に分類すると、上のグラフのようになる。今回収集した語彙は、ナ形容詞、ナ形容詞 / 名詞、が多く、名詞も34語彙確認されたことから、語幹にくることができる品詞の拡大が証明できた。

### 3.2.7 まとめ

統語的特徴では、接辞「～さ」が付加できる品詞の種類拡大が見られる。これまで見てきたように、従来使用されてきた接辞「～さ」とは異なる例が多く存在することが分かった。これらは、「誤用」というには使用例があまりにも多いため、変化している過程であると考えられる。

### 3.3 意味的特徴

どのような語彙でも拡大したからには、何らかの原因・理由が考えられる。それでは、名詞化する接尾辞「～さ」を付けることによって、どのような意味的变化が期待され、使用されるようになったのだろうか。

従来はあまり付加されることの無かった「ナ形容詞」や「名詞」に「～さ」を付け、語彙の拡大が行われるようになった。特に、「名詞」+「さ」によって語彙が造られたが、形態的には変化が見られない。語彙拡大だけでなく、「名詞」+「さ」には「さ」を付けた何らかの「意味」があるのではないだろうか。また、外来語に接辞「～さ」を付けることで、意味に変化は現れるのだろうか。

まず考えられるのが、接辞「～さ」の持つ意味を付加するため、という理由である。接辞「～さ」の持つ「付加した品詞の状態・程度・性質を示す」という意味を加えている。

一般的な事物の性質・状態に関する「な形容詞」には接辞「～さ」が「付加できる」、な形容詞で表される一個人、人の性質・状態については「付加できない」とされてきた。

特に、一個人や人の性質・状態については評価や尺度で計れるものではない為と思われる。

㊦ Aさんは親切だ。

\* Aさんの親切さは他の人と比べものにならない。優しさ

同じようにして造られた、「やんちゃさ」について見てみよう。

彼はやんちゃだ。

彼のやんちゃさは、影を潜め...

実際に使用されている例は、次のようなものがある。

㊦ 次第に「やんちゃ」さが垣間見えてくる ...

(明大スポーツWEB 2006年6月20日)

やんちゃさは影を潜め、すっかり大人になった...

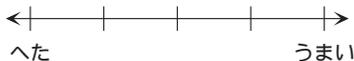
(スポーツ報知 2006年12月18日)



この語彙には元々レベルが存在しないが、その語彙名詞にレベルを持たせ、特に高いレベルにある、もしくは極端である、ということを示すために、「～さ」が使用されているようである。

次の例を見てみよう。

A: は(ゲームが)うまいけど、俺の下手さはもう本当に... (インタビュー2006年)



「うまさ」なども元々は両極のレベルにあるもののうち、高いレベルを示すものではないだろうか。{良い/優れている/すばらしい}など、レベルの高い「い形容詞」「な形容詞」に付いていたものを、用法の拡大により、低いレベルにまで使用できるようになったのではないだろうか。用法の拡大により低いレベル【「へた」+「さ」へたさ】にも使用されるようになった。

#### 4. まとめ

これまで使われてきた接辞「～さ」によって名詞化されたものと、用法の拡大と考えられる

表3 接辞「～さ」の変化比較

	従来のも	用法の拡大
語幹の品詞	イ形容詞 ナ形容詞 不明 名詞 x	イ形容詞 ナ形容詞 名詞
和語/漢語	和 / 漢 不明	和 / 漢
外来語	不明	ナ形容詞中心
意味	不明	状態・程度・性質 を表さない語彙に レベルを持たせる

ものを、様々な角度から比較する。

語彙を拡大する際、接辞「～さ」は、従来は「程度・尺度」を表すイ形容詞・ナ形容詞に付けられていたが、その許容範囲が広がったと考えられる。

本研究では、接辞「～さ」について

「従来働き」と「現在見られる変化」  
接辞「～さ」を付加できる語彙の拡大と特徴  
「名詞」+「さ」という語彙が存在する。  
「～さ」の持つ意味を付加するために、  
名詞に「～さ」を付けるようになった。

以上が明らかとなった。

#### 5. おわりに

これまで、変化を続けながら接辞「～さ」を使い名詞化した語彙は増え続けてきた。今後も現在のルールで語彙を名詞化し新しい語彙を造る

用法の変化（語幹となる語彙の使用範囲拡大）などが起こりうる。

若者言葉や接客用語などに見られる「曖昧さ」との関連も視野に入れ、今後の課題として分析を進める。接辞「～さ」について、これからも観察を続けたい。

#### 参考文献・資料

- 「広辞苑」第二版 新村出 岩波書店 (1974)  
 「国語大辞典」小学館 (1981)  
 語種辞書『かたりぐさ』ver.1.0.1 (2005-09-06) 独立行政法人 国立国語研究所  
 「日本語文法新論」 - 派生文法序説 - 清瀬義三郎則府 桜風社 (1989)  
 「日本語文法大辞典」山口明穂 明治書院 (2001)  
 「パカにみえる日本語」誤字等日本語研究会 辰巳出版 (2005)  
 google 検索「さ」(2006.6.28) (2006.12.25) (2007.8.7)  
 「日本語ボランティア すずめ の忘れっぽい自分のための文法ノート」  
 出自：<http://www.geocities.jp/neko5suzume/gn02.htm#ta#ta> (2006.6.28)

#### 【注】

- 1 「日本語ボランティア《すずめ》の忘れっぽい自分のための文法ノート」を改訂。
- 2 日本語文法では「形容詞」「形容動詞」とあるが、本研究では、活用や名詞との関係から「イ形容詞」「ナ形容詞」を使用する。
- 3 名詞のうち、思想の主題たる事物・概念を指示する「机」「花」「赤」「哲学」のような音は、接尾辞「-ガ」「-ヲ」等を従えて主格 (nominative case)・対格 (accusative case) 等に立ち得るものであり、この一類の音を 実名詞 (Noun Substantive) と呼ぶ。(P.4)
- 4 事物の性質や状態を表現する「静力」「明ラカ」「急」「綺麗」のような音(中略)は、実名詞とは性質を異にし、「-ガ」「-ヲ」等の接尾辞を伴い得ず、したがって、文の主語 (subject) に立ったり、客語 (object) として用いられたりする事も無い。(中略) これらは 形状名詞 (Noun Qualitative) の語幹であり、俗に「形容動詞 (adjectival verb?)」と称せられているものがこれに当たるが、この通称は、これら一連の音の文法的実体を全く表していない。(P.4)
- 5 名詞のうち、思想の主題たる事物・概念を指示する「机」「花」「赤」「哲学」のような音は、接尾辞「-ガ」「-ヲ」等を従えて主格 (nominative case)・対格 (accusative case) 等に立ち得るものであり、この一類の音を 実名詞 (Noun Substantive) と呼ぶ。(P.4)
- 6 インターネットより(出自：<http://www.geocities.jp/neko5suzume/gn02.htm#ta#ta>)
- 7 全ての「な形容詞」に付けられるかどうかは、先行研究などで言及されておらず、詳細については不明である。
- 8 <http://www.searchdesk.com/news.htm>
- 9 ここでは一般的な品詞の変化について述べているが、本研究の名詞化する接辞「～さ」は名詞に付加されることもあるようである。
- 10 この表では、「イ形容詞」を「イA」、「ナ形容詞」を「ナA」、名詞を「N」のように表記する。
- 11 この「ナ/N」は、「ナ形容詞」「名詞」どちらも持つ品詞として「かたりぐさ」に示されていたものをさす。